

おお大勝利

平成 25 年度山東サッカー部報第 1 号 (4 月 5 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

充実の遠征を終えて

3 月 28 日から 4 月 1 日まで、恒例の県外遠征を行いました。今年は、昨年の埼玉⇒山梨⇒埼玉遠征と日程を変え、茨城（鹿島）⇒千葉の遠征を行いました。28 日から 31 日午前までは、鹿島ハイツカップへの参加。宿舎の鹿島ハイツ前に、人工芝ピッチ 5 面が並ぶ素晴らしい環境。

A チーム初戦の相手は、3 年前のコウスケの代に（鹿島ハイツ敷地内の）野球場の外野の人工芝で練習試合を行った日大明誠（山梨）。前半攻め立てられながらも、よく粘ってしぶとい戦いをしたのをうっすら覚えています。このチームではどうなるか、と楽しみにしていました。結果は、パワフルな相手攻撃を止めることができず、0-3 の敗戦。この大会、A も B も含め、①自分たちで主導権を握ってゲームを進めること、②主導権を握られてもゴールを割らず粘り強い戦いをすること、の 2 点を大雑把ながらチームの目標に掲げましたが、なかなかうまくいかない。

二日目も初戦一敗し、予選リーグビリをほぼ確定した状態で、予選リーグ 1 位をほぼ確定させた流通経済大と対戦。そうなんです、この大会は U 1 9 なんです。流通経済大の新入生と対戦させてもらう。しっかり耐えること、そして耐えるためには（後ろに下がってばかりではなく）**果敢にボールを奪おうと前へ前へとチャレンジすること**を確認して試合に臨ませる。すると、流経のフィニッシュの精度の問題や消化試合に対するモチベーションの問題があるとは思いますが、山東がしっかり耐えてゲームを成立させている。試合前に「全然粘れないんだよな～。この試合、何点取られると思う？」と意地悪く聞いた顧問に対し、困惑しつつもベンチのミサキマネは「勝つと信じています」といじらしい返答。「ふ」っと鼻で笑った顧問でしたが、0-0 で前半を折り返す。そして、後半、DF ライン裏へのルーズボールに対するルーズな対応をとがめた山東が何と先制！ ミサキ、ゴメンと謝らなければならない展開。残り 10 分で同点、逆転されますが、**顧問もビックリするくらい選手はよくファイトしていました**。ベンチに帰ってくる選手は、一応に頭を下げガックリ来ている。「いやいや、よく頑張ったよ。しょげることはない、胸を張れよ」と心の中でつぶやく。そして彼らには一言も言葉をかけることなく、試合を観戦していた B の選手に、「A の試合、感動させられたよ。君たちの試合と大違いだ。これは、うまい下手の問題じゃない。**力以上のものを出そうとファイトする選手・チームは、観る人を感動させるんだ**」とまあ、こんなことを語りかけました。

そんな言葉をかけられた B ですが、二日目鹿島学園 B で多少粘りを見せた以外は淡白な試合が多い。いつも県外遠征に行くと、不甲斐ない A に対して覇気を見せる B という構図が多いのですが、今回の B に出るのはため息ばかり。しかし、さすがに自分たちでも不甲斐な

いと思ったか、最終日の千葉経済大付属Bとの試合では、前線でのチェイシング、中盤の選手のスプリント、後方の選手の粘り強い対応を見せる。そういえば、Aチームが三日目に前日の流经との試合で得た自信を発揮する素晴らしいゲーム運びを見せたのですが、それに触発されたのでしょうか。**復帰したケーシの魂の2連続スライディング**で得たボールから得点するなど、これまた観る者を感動させる。

そして31日千葉に移り市立千葉とやらせてもらおうと、Aは淡白だが、逆にBは**厳しい球際によりスキルの差を完全に埋める**戦いを繰り広げる。勢いに任せボールを奪おうと迫り簡単に交わされることは、サッカー用語でよく言うところの「一発当たり」として非難の対象ですが、Bの選手はその一発当たりを恐れぬ果敢なアプローチを見せる。**これまで山東の選手は、良く言えばクレーバーですが、悪く言えば消極的な対応が多く、相手のボールホルダーを自由にさせることが多かったのですが、ようやくBは（というか山東の選手は）、ボールにはまず詰める（ボールとの距離はまず詰める）という小学生が習う原則の効用に気付き始めた模様**。4月1日はファミリーカップの事務局をしており、今回山東を再び誘って下さった東邦大東邦にお邪魔する。うらやましい限りの人工芝ピッチの下、サッカーを楽しみました。「鹿島も良かったけど、31日の市立千葉、会場校の市立稲毛、1日の東邦大東邦、そして西千葉の旅館の篠原旅館、どれも素晴らしいおもてなしの心だったな～」と感激しながら千葉をあとにしました。¹

今回の遠征、残念だったのが、ケガ人が多かった（多く出た）こと。Y2初戦が迫っていますが、大丈夫でしょうか？ 多分第一節に、ケガ人なし、という状態は作れないでしょう。**ただ、ケガ人が多かったために、多くの選手にAの試合の経験を積ませることができたのは収穫**。チーム内競争を高めるためにも、チーム層の厚さを作る意味でも、やはりよい経験（遠征）だったな～というのが実感です。別紙に冬の遠征の決算案と春の遠征の決算案を載せておきます。ご覧ください。今回の遠征に際して、保護者会の皆さまから激励金を頂戴しました。また、31日鹿島ハイツでは、会場を訪れた齋藤保護者会長から差し入れを頂戴しました。ありがとうございました。

まず、第一節がんばります！ 応援よろしくお祈いします。

Y2A第一節 VS 山形南 @日大山形サッカー場 10:00～

¹ 佐竹新校長は、赴任初日でしたが、18:30のサッカー部の到着を待って下さり、一言激励を述べて下さいました。「疲れているでしょうから、ゆっくり休んで下さい。でも、勉強はしましょう。」とサッカー部の生徒に一番応えるお言葉を頂きました。皆さん、春休み明けの第一回学力考査、頑張りましょうね。